

## 富士見高原詩のフォーラム優秀賞作品をご紹介します

帰る時は、笑顔で  
「おかえり。学校楽しかった?。」  
私は、自然を愛してる、

「行つてらっしゃい。学校が  
ばって!!。」

自然。自然。私の大好きな自然。  
通学路の自然の森は毎日、毎日、  
私に話しかけるんだ。

### 大好きな自然

富士見小学校6年 名取 莉緒

あまいあまいすぎなちやを

また、すぎなちやのみたいね  
いっしょにつくろう

いけそうだよ

ゆうとくん

おいしいかったよ

からだがあつたまつたよ

### ゆうとくんのすぎなちや

本郷小学校1年

8月27日、第13回富士見高原詩のフォーラムを開催しまし  
た。町内5小・中学校と一般から計77点の応募があり、優秀  
賞4点、優良賞8点、佳作7点が選ばれました。優秀賞に選  
ばれた小・中学生3名の作品をご紹介します。

自然は、私を愛してくれる

これからも私は、  
自然を愛し続ける。

### 走る

富士見中学校2年 築館 陽介

タッタッタッ ハアハアハア

ぼくは走る 今日も

走り出すときこえる

心臓と風の音の二部合唱

タッタッタッ ハアハアハア

走り出せばわかる

今日の心や体の状態

タッタッタッ ハアハアハア

走りながら願う

もつと長く

そして

もつと速く 走りたい

だから

僕は走る 今日も

タッタッタッ ハアハアハア

タッタッタッ ハアハアハア

## 落合小学校 閉校記念大運動会を開催

9月10日、「かがやけ落合！」をスローガンに、全校児童31名による落合小学校、落合保育園合同の最後の大運動会が開催されました。伝統の「郡歌ダンス」や「瀬沢合戦」などが行われました。地域の方々も多数参加し、会場が一体となりました。日頃の練習の成果が発揮され、スローガンどおり一人一人がかがやきました。



▶瀬沢合戦での騎馬戦。白熱した戦いが繰り広げられました。



▶全校児童で郡歌ダンス。息のあった動きを披露しました。



◀腰を落として力いっぱい綱引きしました。

10月16日  
(第3日曜日)は  
家庭の日

さわやかな秋の季節、テレビやゲームのスイッチを切り、家族でスポーツに汗を流し、読書に親しむなどふれあいを深めましょう。



# 富士見町 教育委員会だより 第70号

平成23年10月1日発行  
富士見町教育委員会編集  
☎62-9235  
kodomo@town.fujimi.nagano.jp

定例教育委員会  
10月12日(水)  
午後1時15分より  
役場2階  
教育長応接室  
傍聴歓迎!

子どもに関する  
なんでも相談  
月曜日～金曜日  
午前9時～午後5時  
☎62-9233  
家庭相談員(宮沢)



(「子育てホットファミリーかるた」より)

# 「日本とジンバブエの違いから感じること」

富士見中学校2年生カテザ・ニヤールさんが小諸市、同教育委員会などが主催した「第17回小諸・藤村文学賞」中学生の部で優秀賞を受賞しました。  
作品の全文を紹介します。

私は、今年サッカーのワールドカップが開催された南アフリカ共和国の北に接するジンバブエ共和国という国で生まれた。私の家の名前「カテザ」はジンバブエの言葉で「神に従う者」という意味だそうだ。そして、私の名前「ニヤール」は、「優雅・優美」という意味で、私のおばも同じ名前を持っている。「たくましく、自立した女の人になってほしい」という願いや、家族を結びつけるという意味も込めてつけられたそうだ。私の名前はとても長い。私のパスポートを見ると、「カテザ 清水 ニヤール」と書いてある。「清水」は私の母の家族の名前から来ていて、私はジンバブエ人と日本人とのダブルだ。ハーフという言葉をよく聞くけれど、二つの国を持つからダブルの方が良いような気がする。

日本と地球の反対側にあるアフリカ大陸という二つの場所から生まれたことを考えると本当にミラクルだ。このような事はいつもは考えないが、改めて考えてみるとダブルはすごくラッキーだ。なぜラッキーか？。ジンバブエでは英語で話すので、私は英語と日本語をしゃべることが出来る。そして、外国と日本の文化を両方体験できる。日本の友達も外国の友達もいる。だからラッキーだと思う。

でも、それほどラッキーではないなあと思う時もある。新年には、お楽しみ「お年玉」も、父の国にはない習慣で、親せきは外国に住んでいるので、お年玉は期待できない。そして、日本にいても外国にいても、「外国人」と言われる。どこにいても特別な目付きで見られる。でも、あまり気にしないようにしている。

日本とジンバブエでは、食べる物も違う。日本人は魚を食べることが多いと思う。ジンバブエは、海のない国なので、肉料理が多い。牛などの家畜は、昔から家族の貯金のようなもので、家族の「生きた財産」だ。今では、日本とほとんど変わらない生活をしている人も多いけれど、今でも自給自足の生活をしている人達は、牛、鳥、やぎ、羊などを飼っていて、必要な時に肉にして食べるので、冷蔵庫もいらぬ。だからいつでも新鮮な肉を食べることが出来る。電気代もかからない。とてもエコな生活だ。



富士見中学校2年生カテザ・ニヤールさん(14)

一番代表的なジンバブエの料理はトマトとオニオンで煮込んだ肉料理で、白とうもろこしの粉で作った「サザ」というやわらかいおもちのようなものといっしょに食べる。ジンバブエの人はこのシンプルな食べ物を毎日飽きずに食べている。家族や親せき、友達が集まっているいろいろな話をしながら、食事をする時は、みんな笑顔でいっぱいだった気がする。そこに突然お客さんが来ても、そこにあるもので何人でもみんな分けて食べる。

デザートにはマンゴやパイ、グワバ、バナナ、オレンジ、イチゴ、ぶどうにももなど一年中いつでもその季節の果物が庭で育っていた。スーパーでスナックや甘いお菓子を買って食べたりもしたけれど、果物をいつも沢山食べていた。裸足で庭に出て行ってマンゴを手でもいで食べたのを覚えている。グワバはきれいなピンク色をしていて

種が多いので、ミキサーでジュースにしてから、ザルで種をこすと、最高にうまい。子牛の赤ちゃんが生まれた時は、一日十五リットルもミルクをしゃぼつたり、マフィンを焼いたのを感じている。

今、私が生活している日本には、おいしい物が沢山あって、学校の給食でも栄養のある食事を、毎日違ったメニューで食べることが出来る。とても幸せなことだと思う。でもときどき、「〇〇は嫌い」とか「〇〇はおいしくない」とか言う人がいる。果物も「食べたくない」と言っている。残したりする人もいます。ジンバブエではこういう事を言う人は誰もいなかった気がする。毎日同じものを食べていても、みんなおいしそうに楽しく食べていた。

もうすぐ夏休みも終わる。また、部活や宿題など忙しい毎日がやってくると思うと、面倒くさいなあと思うってしまう。学校に行きたくないと思う人も沢山いると思う。でも、ジンバブエには家族の手伝いをしている学校に行きたくても行けない子どもが沢山いる。学校に行けることはすごくうれしいことだ。それでも、ジンバブエの子達はいつもニコニコしていた気がする。本当の幸せとは何だろうか。

## 編集後記

ニヤールさんの実体験からの「本当の幸せとは」何かの問いかけを、皆さんはどう受け止めますか。(Y)